

第115号

ひこね 市議会だより



写真は、9月25日に開催された市制施行75周年記念事業「ヘレン・ケラー来彦75周年障害者のつどい」でのよしづえコンサートおよびパネル展の様



一般会計補正予算 1,357万4千円（減額） 可決

暴力団排除条例・商業振興基本条例など

9月定例会のあらまし

9月定例会は、9月5日から22日までの18日間の会期で開催し、提出された議案審議のほか、各会派の代表者および個人からの質疑、一般質問を行いました。

今期定例会に提出された市長提出議案は15件で、14件についてはいずれも原案のとおり可決・認定・同意しました。なお、平成22年度彦根市各会計歳入歳出決算につき認定を求めることについては、決算特別委員会を設置し、閉会中の継続審査とすることとしました。また、議員提出議案は意見書案5件であり、いずれも原案のとおり可決しました。

請願8件については、3件は採択、残り5件は不採択としました。

9月定例会の結果 2～3

議会改革特別委員会中間報告 4

予算特別委員会の審査状況 4

決算特別委員会を設置しました 4

常任委員会の審査状況 5

代表質問 6～7

個人質問 8～11

ほかにもこんなことを質問しました ... 11

議場コンサート開催 12

予算関係 = いずれも可決

件 名	概 要
平成23年度(2011年度)彦根市一般会計補正予算(第3号)	補正予算額：1,357万4千円(減額) 児童扶養手当および特別児童扶養手当支給事業、民間保育所施設整備事業等の増額補正、社会資本整備総合交付金を財源とする各事業の減額補正、小学校給食民間委託業務等の債務負担行為の補正
平成23年度(2011年度)彦根市下水道事業特別会計補正予算(第1号)	補正予算額：9,572万3千円(減額) 国の社会資本整備総合交付金の交付決定等に伴う減額補正
平成23年度(2011年度)彦根市介護保険事業特別会計補正予算(第1号)	補正予算額：2,446万3千円 介護給付費負担金等の確定に伴う増額補正
平成23年度(2011年度)彦根市水道事業会計補正予算(第2号)	補正予算額…収益的支出：604万9千円(減額) …資本的支出：1,470万円(減額) 公共下水道関連工事費の減額補正

条例関係 = いずれも可決

件 名	概 要
彦根市地方教育行政の組織及び運営に関する法律第24条の2第1項の規定に基づく職務権限の特例に関する条例案	スポーツおよび文化に関し市政全般の中で幅広く施策を講じるため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定に基づき、新たに制定するもの
彦根市暴力団排除条例案	暴力団の排除を推進するに当たり、排除に関する基本的施策等について定めるため、新たに制定するもの
彦根市商業振興基本条例案	事業者の商店会および経済団体等への加入促進、その他商業振興に関する基本的事項を定めるため、新たに制定するもの
彦根市職員定数条例の一部を改正する条例案	行政需要の変化等に対応するため、各部局等の職員の定数の増減を行うもの
彦根市市税条例等の一部を改正する条例案	地方税法等の一部改正に伴い、条例の所要の改正を行うもの
彦根市災害弔慰金の支給等に関する条例の一部を改正する条例案	災害弔慰金の支給等に関する法律の一部改正に伴い、条例の所要の改正を行うもの
彦根市風致地区内における建築等の規制に関する条例の一部を改正する条例案	放送法等の一部改正および文化財保護法の一部改正に伴い、条例の所要の改正を行うもの

9 月 定 例 会 の 結 果

決算関係 = 認定、継続審査

件 名
平成22年度(2010年度)彦根市立病院事業会計の決算につき認定を求めることについて=認定
平成22年度(2010年度)彦根市水道事業会計の決算につき認定を求めることについて=認定
平成22年度(2010年度)彦根市各会計歳入歳出決算につき認定を求めることについて=継続審査

人事案件 = 同意

件 名	概 要
彦根市教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて	教育委員会委員の小田柿幸男氏の任期満了に伴い、後任委員に前川恒廣氏を任命することについて同意を求めるもの

報告

件 名
市営住宅の管理上必要な訴えの提起について
損害賠償の額の決定について(5件)
平成22年度(2010年度)財団法人彦根市事業公社の決算状況について
第23期彦根総合地方卸売市場株式会社の決算状況について

議員提出議案(意見書案) = いずれも可決

件 名
滋賀県立高等学校再編実施計画(原案)の白紙撤回を求める意見書案
滋賀県立高等学校再編実施計画(原案)の再編・統廃合に関する意見書案
「滋賀の教育日本一」をめざし、私学助成を拡充することについての意見書案
期限を切って原発からのすみやかな撤退を求める意見書案
「年金受給資格期間を10年に短縮を求める」意見書案

請願 = 採択、不採択

件 名
「滋賀の教育日本一」をめざし、私学助成を拡充することについて=採択
原発からのすみやかな撤退で、原発ゼロへの請願書=採択
ポリオ不活化ワクチン早期導入など、予防接種改善に関する請願書=不採択
年金受給資格期間の10年への短縮を求める請願=採択
消費税によらない最低保障年金制度の創設を求める請願=不採択
無年金・低年金者への基礎年金国庫負担分3万3千円の支給を求める請願=不採択
0.4%の年金引き下げをもとに戻すとともに、物価指数による年金引き下げを行わないことを求める請願=不採択
国民への負担増をあらたに強いる「社会保障・税一体改革成案」に反対し、社会保障の充実・改善をもとめる請願=不採択

議会改革特別委員会中間報告（7月4日・28日開催）

7月4日の委員会では、議会基本条例制定の今後の方針についておよび今後の協議項目について協議しました。

議会基本条例制定の今後の方針については、プロジェクトチームの設置および構成・考え方・方向性などについて協議を行い、政党会派を含む各会派から1名ずつ選出し、4名で設置することになりました。また、今後の協議項目については、これまでもから上がっている整理項目あるいは新たに議会改革特別委員会の中で議論を要する内容について協議を行いました。

7月28日の委員会では、議会基本条例プロジェクトチームについて、市民アンケートについて、条例制定のスケジュールについておよびその他の協議項目について協議しました。まず、議会基本条例プロジェクトチームについては、プロジェクトチームの座長・名称を決定し、プロジェクトチームの位置付け、全議員に対する周知の方法等について協議を行い、市民アンケートについては、アンケートを全会一致で実施することを決定し、アンケートの内容については、特定の項目について様々な意見が出され、再度プロジェクトチームの中で議論していくことで意見集約しました。

条例制定のスケジュールについては、プロジェクトチームでの議論を踏まえ策定していくことを確認しました。

最後に、その他の協議項目については、委員長が優先順位を示した上で、付託案件のない委員会のあり方についてや交渉会派について協議を行い、付託案件のない委員会のあり方については、委員会の持つ調査権と提案権を行使する本来の委員会のあり方について、いろいろな意見が出されました。そして、交渉会派の要件の見直しとともに、再度議論することとなりました。

予算特別委員会

9月15日に開催した委員会では、一般会計補正予算1件、特別会計補正予算2件、企業会計補正予算1件の合計4件の議案審査を行いました。審査では、日本脳炎予防接種の対象年齢、児童扶養手当の当初見込み、民間保育所施設整備事業の遊具修繕、債務負担行為補正の期間の根拠、消防職員公務災害補償、市立保育園の遊具修繕の見極め、乳児家庭全戸訪問事業の訪問手段、児童虐待防止対策事業の内容と市内の虐待の現状、母子家庭高等技能訓練補助金に関する募集の方法および技能訓練メニュー、中老人福祉センターの駐車場整備、金亀会館の整備・移転、幼稚園耐震化工事の着工時期および工期、住宅用太陽光発電システム設置補助の財源、合併浄化槽補助の財源、レンタサイクル事業の運営形態ならびに設置場所および当初計画と現在の準備状況、当初予算の電動アシストとレンタサイクル事業の関係、歴史まちづくり事業の具体的内容、街路事業の減額に關しての来年度の対応、放置林事業の基本的な考え、彦根駅東土地区画整理事業の土地取得と売却の関係等の質疑がありました。採決では、4議案とも原案のとおり異議なく可決すべきものと決しました。

決算特別委員会を
設置しました

平成22年度彦根市一般会計特別会計の決算審査のため、決算特別委員会を設置しました。

委員

◎ 安藤 博
○ 杉本 君江
○ 宮田 茂雄
○ 八木 嘉之
○ 辻 真理子
○ 有馬 裕次
○ 山内 善男
○ 田中 滋康
○ 安澤 勝
○ 徳永 ひで子
○ 北村 収
○ 馬場 和子

※

◎ 委員長

○ 副委員長

福祉病院教育常任委員会

9月16日に開催した委員会では、条例改正1件、市立病院事業会計決算1件の合計2議案および請願1件の審査を行いました。

議案

市立病院事業会計決算の審査では、病院改革プランが策定され、経常収支の黒字化を1年早く達成することができたことを評価し、今後、分娩の再開等も必要だとの発言がありました。採決では、いずれも原案のとおり可決または認定すべきものと決しました。

請願

「ポリオ不活化ワクチン早期導入など、予防接種改善に関する請願書」の審査では、賛成、反対の立場から意見が出され、起立採決の結果、不採択とすべきものと決しました。

市民産業建設常任委員会

9月16日に開催した委員会では、条例制定1件、条例改正1件、水道事業会計決算1件の合計3議案および請願5件の審査を行いました。

議案

いずれも原案のとおり可決または認定すべきものと決しました。

請願

「年金受給資格期間の10年への短縮を求める請願」の審査では、賛成、反対の立場から意見が出され、起立採決の結果、採択とすべきものと決し、「消費税によらない最低保障年金制度の創設を求める請願」、「無年金・低年金への基礎年金国庫負担分3万3千円の支給を求める請願」および「0・4%の年金引下げをもとに戻すとともに、物価指数による年金引下げを行わないことを求める請願」の審査では、賛成の立場から意見が出され、起立採決の結果、不採択とすべきものと決し、「国民への負担増をあらたに強いる「社会保障・税一体改革成案」に反対し、社会保障の充実・改善をもとめる請願」の審査では、賛成、反対の立場から意見が出され、起立採決の結果、不採択とすべきものと決しました。

企画総務消防常任委員会

9月20日に開催した委員会では、条例制定2件、条例改正2件の合計4議案および請願2件の審査を行いました。

議案

いずれも原案のとおり可決すべきものと決しました。

請願

「「滋賀の教育日本一」をめざし、私学助成を拡充することについて」の審査では、異議なく、採択すべきものと決し、「原発からのすみやかな撤退で、原発ゼロへの請願書」の審査では、賛成の立場から意見が出され、起立採決の結果、採択すべきものと決しました。



▲県立彦根西高校

公 政 会

質問者 馬場 和子

所属議員：10名

問 世界的経済危機からの脱却基調の中、東日本大震災が発生し、津波被害や原発事故の収束も見られない状況下、市税の減収や交付金の減額など厳しい予測がある。持続可能な財政基盤の確立に向けた今後の取組指針に関して、22年度の決算の見通しを踏まえて24年度の予算編成の方針は。

また、市長公約の実現に向け従来の緊縮財政を改め、積極方針に転じる意向はあるのか。

問 十分な説明や議論を交わすことなく、県教育委員会が拙速に進めようとしている再編計画に対する見解は。次代を担う青少年の育成は将来に向けての投資であり、今回の計画は教育の機会を奪うものに他ならない。伝統ある彦根西高や彦根東高・彦根工業高の定時制の廃止が及ぼす影響についての所見は。統廃合対象校のある他市町との連携も含めて、今後、どのように対応していくのか。



県立高校再編計画への 見解と対応は



高校再編計画原案に絶対反対で対応

答 7月11日に突然公表された原案であり、統廃合対象の理由も明らかではなく余りにも乱暴であり憤りを感じる。学級数の減少により市内で240人の定員が減少することになり、青少年への影響は大きい。特色ある教育を実践している彦根西高の統廃合、定時制課程の廃止・再編には絶対反対。長浜市と連携し、現在、県議会に対し、計画を議決事項とするよう働きかけているところ。



22年度決算を踏まえ 24年度予算編成は



国の動向を見極めつつ慎重な編成に

答 財政再建の取組により改善傾向にあるが、社会的情勢からも国からの交付金等は減額され、市独自の施策を実施する余地は少ない。既に着手している彦根駅東、稻枝駅改築、中学校給食、道路の整備等は推進し、定住人口や交流人口の増加を図ることで「風格と魅力のある都市の創造」の実現に向けての編成方針だが、東日本大震災の影響も考えつつ国の動向を見極め慎重に編成する。

ほかにもこんなことを質問しました

- ☆ 彦根市副市長の不在について
- ☆ 原子力発電所に対する対応について
- ☆ 消防組織の強化を含む防災対策について
- ☆ 国道306号バイパスの整備進捗について
- ☆ 超・高齢社会への対応について
- ☆ 観光資源としての荒神山の活用について
- ☆ 彦根市の農業施策について
- ☆ 広域ごみ処理施設について
- ☆ 条例制定案に係る見解について





夢 み ら い

質問者 安藤 博

所属議員：7名

問 本市の観光施策として外国人観光客の誘客は有益であり、特に経済発展著しい中国人観光客は魅力的である。友好都市には中国湘潭市もあり、中国に対する具体的な誘客方法、旅行会社へのアプローチについて問う。次に、大型宿泊施設を有さない本市は、ここ数十年通過型観光となつていく。宿泊型観光施策に加え、滞在時間を長くする施策にシフトする考えについて見解を求める。

問 中学校給食センターの建設候補地として彦根総合地方卸売市場敷地内での建設可能性を検討した事前調査結果と今後の方向性について問う。次に、実質公債費比率18%以内に抑える必要がある中、財政負担が少ない中学校給食が求められており、湖東定住自立圏構想事業では地域活性化事業債が活用できるが、学校給食施設等整備事業債と比較して財政負担の少ない事業債はどれか。



**外国人観光客の
誘客アプローチは**



商談会や博覧会等でPRしている

答 誘客方法として、びわこビクターズビューローの部会で、韓国エージェント商談にてPRし、中国のガイドブックへの掲載等アプローチしている。また、今秋に日本旅行業協会の博覧会に出展し、エージェントへPRしていく。次に、市内の回遊性の向上等により、従来の滞在時間に比べ長くなっていると考える。日帰りの4倍以上の経済効果がある宿泊型観光施策と並行し推進していく。



**中学校給食の実現に
向けた方向性は**



豊郷町と実施に向けた協議を行う

答 事前調査の結果、インフラ整備は問題なし。施設配置は、計画食数を4500食、または6000食とし、平屋建て、二階建てでも配置が可能である。今後の方向性は、湖東定住自立圏構想として豊郷町と実施に向けた協議を行っていく。次に地域活性化事業債は充当率90%、交付税算入率30%となり、学校給食施設等整備事業債と比較しても、最善の財源確保と財政負担軽減となる。

ほかにもこんなことを質問しました

- ☆ 平成24年度彦根市予算編成に関して
- ☆ 活力ある地域産業の振興について
- ☆ 彦根市が目指す地域ブランドについて
- ☆ 災害に即応できる自主防災組織について
- ☆ 彦根市立病院事業会計決算について





災害弱者の避難支援は

問 いざ災害が起こった時、高齢者や障害者にとって一般の避難所での生活は想像以上に過酷である。安全に避難できるバリアフリーや介助員などを配置する「福祉避難所」の指定状況は。

答 避難施設が、耐火・耐震性など建物の安全性が確保され、バリアフリーなどの施設面の環境がある程度整備されていることが求められることや、

徳永ひで子



地域コミュニティを維持しながら、災害時要援護者の配慮が図れるということから、市内の17小学校の拠点避難所に、今後「福祉避難室」を設けることを地域防災計画に位置づける予定である。



福祉避難室を17小学校に設ける予定



彦根市にとって 旧彦根港の将来像は

問 旧彦根港を今後どのようにしていくのか。

答 当面は水草刈り取りを継続的に行いながら、



北村 収

長期的な視野に立ち埋め立ても含め、旧彦根港湾の環境改善のため、関係機関とともに検討していく。

問 市より以前から県に要望がでている歴史博物館のための用地として、奥の部分7376㎡を埋め立てしてはどうか。

答 旧彦根港湾最深部だけの敷地では、歴史博物館としては不十分であり、隣接する図書館や金亀公園も含めた一体的な計画を立案することが必要になってくると考える。



長期的な視野に立ち検討していく



彦根市役所受付窓口の 改善について

問 窓口サービスの課題はどの様に改善するのか。

答 一階に誰もが気軽に尋ねられる案内係の配置を検討。また、庁舎耐震補強工事と合わせ、利用者の多い窓口を一階に集中させるワンフロア化と証明の一箇所での交付を検討。キッズコーナー設置等待合の改善やコンビニ交付等も検討していく。

問 福祉相談業務は平田町の福祉保健センターに

有馬 裕次

あり、場合により本庁との往復が必要。本来、相談も手続も一度で済むよう本庁に設置すべきでは。

答 福祉の相談は専門性も高く、相談員のみの本庁配置は、スペースの問題と合わせ困難と考える。



耐震対策を進め具体的に計画する



ひこねに県立歴史博物館の 実現を！

問 県東北部流域下水道浄化センター設置に伴う受入れ条件の一つとしての約束を県は今も認識しているのか尋ねる。

答 毎年彦根市独自の要



杉本 君江

望を行っており、本年は8月3日に県知事、県教育長に直接面談し要望した。また、少年自然の家の本市受入れ協議の中で再確認している。

問 県立歴史博物館の建設を彦根市にののあかしはあるのか聞く。

答 協議を重ねてきた県との交渉記録が市に残っている。

問 今後の取組を聞く。

答 彦根に県立博物館がだめなら国立博物館を誘致できるよう県に強く働きかけたいと考えている。



今後とも県に強く働きかけていく

上杉 正敏

問 水道老朽管の現状は。
平成22年度末現在
761kmの内、石綿管は
2・6km、普通鉄管は
2・0kmである。
問 管路の耐震化率の進
捗は。



山田多津子

問 国が構造改革の下、
弱者切り捨て政治を推し
進める中、住民福祉の機
関としての自治体の役割
は重要である。しかし路
線バス制度と愛のりタク
シーの見直しがされるこ
とに伴い利用者間での不
公平が生じてくる。料金
の引き下げは幾度となく
求めてきており、今回も
見直しされるが路線バス
を補完する立場からも料
金一律化を図るべき。

上水道の充実についての 取り組みは



老朽管の更新にあわせて耐震化を



答 今年度は下水道工事
に伴う布設替や老朽管更
新事業にあわせて約7km
の耐震化率を5・8%と
する計画である。
問 他の地下埋設物のサ
ンドブラスト対策は。
答 サンドブラストは、
水道管の漏水により、そ
の圧力によって周辺の土
砂が噴出され、近接する
他の地下埋設物を破損す
ることであるが、本市で
は他の管理者と近接協議
により離隔の確保や防護
対策を行っている。

バスと愛のりタクシーの 料金一律化を



利用者ニーズに対応し料金設定している



答 愛のりタクシーは路
線バスと比較すると料金
は高いが、便数や停留所
の増設が可能であり、利
用者のニーズに対応でき
る。双方のメリット、デ
メリットを勘案すれば公
平性は
損なわ
れてい
ないと
考えて
いる。



▲愛のりタクシー

宮田 茂雄

(仮称)湖東三山SICの 活用を！



市中南部や湖東地域の振興に繋げる



問 彦根市中南部の振興
を図るために、湖東三山
SICをどう活かすのか。
答 交通利便性の向上に
より、既存産業の活動の
円滑化や新たな産業等の
起爆剤とする。
問 彦根市中南部への企
業誘致や荒神山周辺の観
光資源の開発整備は。
答 商業や工業用途地域
へ工場や店舗等を誘導す
る。また荒神山の良好な
自然環境や地域資源を活
用する取組を支援する。
問 観光客をどのように
誘導するのか。
答 宿泊型の周遊観光モ
デルコースや広域観光マ
ップ等を作製して、湖東
地域をPRするキャンペ
ーンを行う。



※SIC=スマートインターチェンジ

田中 滋康

「彦根市商業振興基本条例」 の目的は



事業者が地域社会に貢献の意識を



問 商業者や商店街は、
商業振興や地域の賑わい
を創出する事業に取り組
み、地域経済の発展や地
域コミュニティの維持強
化の面で大きな役割を果
たし、良好なまちづくり
に寄与されている。そこ
へ新たに新店する事業者
に金銭的・人的に自分の
負担と協力を求めるのが
条例制定の目的であるが、
強制力に欠け問題と思
うが。
答 本条例は、事業者自
らが地域社会の構成員で
あることを認識され、事
業者の責務として、理解
と協力により商店街や経
済団体への加入を求める
ものである。本市の責務
として必要に応じ指導、
助言を行い事業者の意識
づけに努める。





鳥獣問題の所管を 統一し捕獲作戦を

問 有害鳥獣ハクビシンの被害拡大を防ぐために。
答 農林業における被害の他、建物に傷をつける等の生活環境上の被害ももたらしているため、農林水産課と生活環境課で連絡を密にして対応していく。特定外来生物に指定されていないことから、市では県知事に申請を行い、捕獲の許可を得るとともに、現在狩猟免許を取得し、市において檻を

安澤 勝



▲ハクビシン

設置し、捕獲できる準備をしている。自衛手段を講じても被害が収まらない場合は、市においても積極的に対応していきたいと考えている。



ハクビシン対策関係課の連絡を密に



平成22年度水道事業 会計の決算は

問 収益的収支で2億5千万円強の黒字となった理由は。
答 経営改革プランに基づき職員の創意・工夫を



小川喜三郎

基本に、経費削減、サービス向上、民間活力の導入等一層効率的に行ってきた結果であり、純利益は前年度比で約3600万円の増である。
問 料金の値下げを行う考えはないか。
答 市民の節水意識の浸透等で給水収益が減少する中で、給水開始から50年が経過し施設の更新や管路の耐震化が必要であり、今後も財源の確保は容易ではなく、利益剰余金に積み立て、料金の値下げは考えていない。



黒字部分を値下げする考えはない



企業誘致活動と その実績について

問 彦根市における企業誘致活動の実施方法および近年における誘致実績についての状況を問う。
答 実施方法については、大都市圏での説明会や市長をトップとする個別企業への訪問、さらにはパンフレットやHPの活用等様々な方法で対応してきた。こうした結果、県外からの新たな立地はないものの、工場等設置奨励条例による実績は10年

安居 正倫

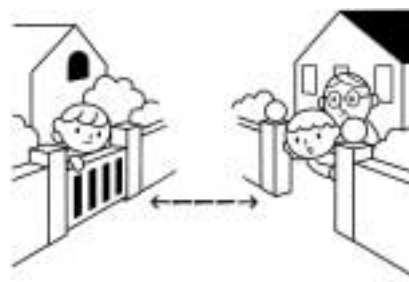
間で新設3件、増設16件、移設2件となっている。また、既存大手企業等5百億円におよぶ設備投資があり企業の新設に匹敵する効果を生み出していることから一定の成果はあったものと考えている。



誘致活動による成果はますます



緊急車が入れない 二項道路の拡幅は



問 彦根市における二項道路拡幅整備事業の方針

辻 真理子

は。
答 二項道路の拡幅整備事業について先進地の情報を収集し調査研究を進めている。
問 道路拡幅に関する条例の必要性は。
答 セットバックした土地を担保するためには、市民の皆様のご理解とご協力が不可欠であり、せまい道路の拡幅整備について、その事業の目的を明確にするため、事業を実施する場合は条例化が必要であると考えている。



二項道路の拡幅には整備推進条例を

矢吹 安子



問 放射性物質が放出すると安定ヨウ素剤を24時間以内に服用が必要では。
答 放射線等の知識が重要、国へ専門的医療機関

北川 元氣

問 本年三月の大震災により今後彦根市の財政は厳しさを増すと想定されるが職員の人件費はどうあるべきか。
答 これまでも削減してきたが行政サービスを下させないよう適正な人事管理に努める。
問 職員の職務とは。
答 市民の幸せのため全力をつくすことである。人材育成はどうか。人材育成基本方針を



市職員が笑顔とやりがいを持つ職場



市民の幸せに全力をつくす！

問 策定し、職場研修や人事考課制度を導入している。第三者機関による人事評価制度や表彰制度を取り入れてはどうか。
答 人事考課制度の精度を高め効果的な手法を検討していく。



原発事故から子ども達を守るために



親を含む家族の避難体制をベースに

問 の設置と医師やスタッフ確保の予算要望している。子ども達の命を守るために学校給食の食材と学童疎開させる考えは。
答 食材は基準値以下、給食の安全確保に努める。学童疎開より、親を含めた「家族」を単位の避難体制がベース。親善、姉妹都市を通して支援を受ける応援協定機関の拡大を検討。避難者の受け入れは柔軟に対応する。
問 放射線量値の公表は。半年間はデータ収集し、その後に検討する。

・ほかにもこんなことを質問しました・

- ☆小・中学生の居所不明児の大幅増について
- ☆被災地の復興を支援
- ☆地域ぐるみで見守りシステムを
- ☆子どもきらめき未来プランの進捗状況
- ☆幼保一体化の「総合施設」への考えは
- ☆庁舎の耐震対策について
- ☆より豊かな学校給食をもとめて
- ☆介護保険事業について
- ☆台風12号による農作物の被害対策について
- ☆荒神山グラウンドゴルフ場の拡張等について
- ☆主要地方道大津能登川長浜線の整備について
- ☆社会教育の推進
- ☆原発なくして安心して暮らせる町づくりについて
- ☆稲枝駅のエレベーター設置とトイレの改修工事を一刻も早く
- ☆公共施設の駐車場の確保について
- ☆法が切れた同和対策事業の終結について
- ☆障がい者への生活支援強化について
- ☆児童デイサービスの基盤整備を推進・拡充することについて
- ☆自治体病院の経営形態を考える前に取り組むことは多いが
- ☆消防団について
- ☆中学校給食早期実現について
- ☆今子どもが危ない有害携帯サイトについて
- ☆小・中学校のエアコン設置について
- ☆県と17市町の「原子力発電所の安全対策に関する要望書」に参加の是非について
- ☆彦根市南部地域の開発について

山内 善男



彦根西高の廃止を断念させるために



庁舎にたれ幕の設置を検討している

問 県は一学年五クラス以下の高校は不適切として十数校なくす第一弾で西高の廃止と、彦根東・彦工の定時制の廃止の原案を発表した。
滋賀は人口流入県で子どもの数は十数年間は減らない。
高校生一人に使っているお金は全国45位。統廃合が実施されれば最下位となることは確実である。市は子どもたちが安心



議場コンサートを開催しました

市議会では、会派を超えた議員有志による議会開放推進プロジェクトチームを組織し、市民に開かれた議会づくりを進めています。

その取組の一環として、9月定例会開会日の9月5日(月)に第12回議場コンサートを開催しました。

今回は、ハピネスハーモニカクラブの皆さんをお招きし、童謡や叙情歌、また、「彦根市民の歌」や「琵琶湖周航の歌」などの曲をハーモニカにより、約30分間、演奏していただきました。



議場には、多くの方々にお越しいただき、懐かしく、また心温まる演奏により、ゆったりと楽しいひとときを過ごしていただきました。



第13回 議場コンサート(予定)

日時 平成23年11月28日(月)
13時から

場所 彦根市議会議場(市役所5階)

出演 ラ・ダム・カミリア

内容 電子ピアノによる演奏
調整中

その他 詳細は広報ひこねやホームページでお知らせの予定

次の定例会は
11月です

9月定例会は延べ44人が傍聴



本会議の日程(予定)

開 会 11月28日(月)

個人質問 12月5日(月)

個人質問 12月6日(火)

個人質問 12月7日(水)

閉 会 12月14日(水)

予 算 12月8日(木)

◆企画総務消防 12月9日(金)

福祉病院教育 12月12日(月)

◆印の委員会は14時から、それ以外は9時から開催予定

委員会の日程(予定)

編集後記

市制施行75周年記念事業は、約20事業が行われています。10月5日には、ひこね市文化プラザで記念式典が多数の市民にお越し頂き開催されました。

式典の最後では、会場全員で「彦根市民の歌」の合唱。彦根に住んでよかったと、実感するひと時でした。

また、今号の表紙を飾る「障害者のつどい」は、ヘレンケラーが来彦し講演したことにちなみ開催されたもので、「福祉のまちひこね」をアピールできました。

記念事業には、他にも「ひこねやん田んぼアート」で荒神山周辺の南部周辺をPRする事業、「ひこね井」で食の創出・育成で新たな彦根をアピールする事業、「ひこねやんカップ」で青少年の科学への興味を高める事業など、その多くは「彦根市民の歌」にあるうるわしき文化の都、人の和に栄える都、月に日に伸びゆく都、誕生して以来、変わらぬ彦根の目指すべき方向です。

私たちも、自信と誇りを持ち市民の負託に応えてまいります。